

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名 (地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
白鷹町	萩野地区 (山道、南、西、新屋敷一、新屋敷二)	令和4年3月10日	令和5年3月29日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	114 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	84 ha
③地区内における70歳以上の農業者の耕作面積の合計	9 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	8 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	8 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	5.3 ha

注：④の面積は、以下の「5 中心経営体」の「備考（今後引き受ける意向のある耕作面積）」欄の合計の面積を記載します。

2 対象地区の課題

地域の若者が農業に魅力を感じ、将来的に地域農業の担い手となっていけるような、効率的な農地利用を進めていく。また、貴重な農地の有効活用を図るためにも、中心経営体を中心とした農地の集積・集約化を進めていく。

注：「課題」欄には、「現状」を基に話し合いを通じて提示された課題を記載します。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

中心経営体である紺野博之氏、紺野桂馬氏、大津大介氏、株式会社山形ホワイトイーグルスを中心に集約化を進めていく。
(※地元でほ場整備地の耕作者に独自で実施したアンケートによると紺野博之氏は現状維持、他3者は経営規模の拡大を検討)

注：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と町が判断する集落営農及び町の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。